



とらいあんぐる



2017年11月・12月

一音会ミュージックスクール発行

「音楽ファン」

「一音会は何を目指しているのですか？」

そんな直球を投げられることがあります。実は、よくいただく質問でもあります。

「どうしてそんなことをおたずねになるのですか？」

質問した方に、逆に質問してみたことがあります。

この時、質問者に質問で返した人は、生前の私の母でした。

相手は、テレビ局のプロデューサーの方でした。テレビ番組の撮影に協力

していた際、合間になされた会話だったように記憶しています。

教室の取材に、テレビ局の取材チームが何度かにわたって教室に足を運び、ようやく撮影も終わりつつある、そんなほっとした空気が流れたときの他愛ない雑談です。

プロデューサーの方はまだ若く、とても率直な人でした。

母の問いかけに苦笑いされ、黙ってしまいました。

でもその後、「しかたないなあ、白状するか・・・」という表情でおっしゃいました。

「だってね、先生。こここのところ、

何度も一音会さん取材させていただいて、ボクは正直にいうと、とても不思議な気持ちになってしまっているんです。このたくさんの生徒さんの全員に、先生が考えるすべての音楽的能力を身につけさせようとしているわけでしょ？ だって絶対音感なんて、普通は100人いたって、その中に一人、いるかいなかかなんでしょ？ それを100人全員に絶対音感つけようとしているんでしょ？ ちょっとなんていうか……」

いいよどむプロデューサーさんを見た母は、いいます。

「変な音楽教室だと思いました？」

プロデューサーさんは、手をたいて、笑います。

「ハイ、すっごく変な音楽教室で、すっごくヤバイ先生だと！」

いってしまうと、彼は肩の力が抜けたのか、言葉がなめらかになりました。

「だってね、生徒さんが全員、ピアニストになりたいと思っているわけじゃないでしょ？ 趣味程度でいって最初から思っている人も、けっこうい

るんじゃないですか？ ボクも小さい頃、ちょっとだけピアノ習ってましたよ。練習がめんどくさくて、やめちゃったなあ。ボクの姉はもうちょっと続いたけど、やっぱり小学校3年生くらいで、やめちゃったかな……。ピアノって、そういうこと多くないですか？」

彼は、いってしまってから「ちょっと、いいすぎたかな？」という不安な表情になって、母の表情をうかがいました。

母は、にこにこしていました。そればかりか、なんだかとても楽しそうでした。

母が怒っていないことを知って、プロデューサーさんは、もう一歩、ふみこむことにしたようです。



彼は、少しだけ声をひそめ、言葉をつなげます。

「あの・・・怒らないで書いてほしいんですけど、ピアノって、趣味っていうか、ちょっとしたお遊びっていうか、すごく軽いおけいごとじゃないですか？なのにこの教室って、すべての生徒に思いっきり全力投球じゃないですか。先生のノリは、なんていうか・・・あの・・・ビックリしました」

「ボク、最初ね、『先生がすべての子に、考えるすべての音楽的能力をさずけようとしている』って書いて、すごいスパルタ的な教室をイメージしちゃってたわけですよ。『天才、育てます！』的な！生徒さんも、厳しい選抜試験かなんかで選ばれた、特別な才能を持った子たちで。それで全員が一流のピアニストを目指す！みたいな」

母は、とうとう笑いがおさえられなくなり、声をあげて笑いました。そして、いいました。

「みんなで、ハチマキしめてると思いました？」

「そうそう！ なんとか養成ギブスとか、つけちゃって」

「アハハ・・・」

「弾けるまで休むなー！みたいな。で、子どもは泣きながら弾いてる、みたいな」

「アハハ・・・」

母は、笑いころげています。

プロデューサーさんも、笑っていました。

「だけど教室に来てみたら、全然、雰囲気が違う。子どもたちはものすごく楽しそうで、床にねっころがって、へびになったりしてるし。わけがわからないですよ！」

「へび、楽しいでしょ？」

二人は、なおも楽しそうに笑っています。

笑い疲れたプロデューサーさんが、少しだけ真顔になっていいました。

「しかも、先生はいいましたね。プロの音楽家を一人でも多く出そうとしているわけではない・・・。普通の子を集めておいて、その全員に等しく、すべての力をさずけるって・・・。い

ったい、何を目標している教室なのか……。ボク、わけがわかんないですよ。」

母は、ほほえんでいます。

プロデューサーさんは、急に声をひそめて、母にききます。

「先生、本当のところを教えてくださいよ。本当に、生徒たちを有名な音楽家にしようと思っていないんですか？」

「思っていないですね」

即答です。

「本当に？ 全然？」

「ええ、全然、思っていない」

「ウソだあ～。じゃあ、先生は何を目標しているんですか？」



母は、少し考えた後、おもむろに口を開きます。

「私はね、音楽によって人生が豊かになるような、そんな人になってほしいんです」

「……もっとくわしく教えてください」

「子どもが、自分の意思で音楽家になることを選んだら、それはもちろん良いこと。でも、みんながみんな、音楽家になるわけではないし、そんなことは望んでいません。私が育てたいのは、音楽が好きで、音楽によって自分も周りの人も幸福にする人。それは音楽家でなくてかまわない。全然かまわない。私が目指しているのは“音楽ファン”を育てることです」

「音楽ファン？」

「ええ、私が作った言葉ですから変かもしれませんが、意味は『音楽を愛し、音楽によって人生を豊かにする人、世界を豊かにする人』です」

「……」

プロデューサーさんは、黙っていました。

何か考え込んでいる様子です。

沈黙の後に、彼は恥ずかしそうにいました。

「ボク、今からでも“音楽ファン”になれますかね？」

ずっと冗談めいた話し方をしていた彼が、はじめて真面目な顔をしていました。

母も真面目な顔を作ります。

「あなたは、数あるテーマの中から音楽教育を選び、数ある取材先から私の音楽教室を選びました。あなたの中には、音楽に対する強い興味があるのですね」

「すごいなあ、先生には何でもお見通しなんですね。確かにそうかもしれない……。取材がはじまってから気づいたんですけど、今回の取材、ボク、なんだかいつになく楽しいんです」

「じゃあ、もう“音楽ファン”だ」

「いやいや、だってボク、何もできないですよ。楽器が何もできないことに、実はコンプレックスがあって」

「じゃあ、今から楽器やったらいいじゃないですか？」

「え！ 今から?!」

「あなたが今からピアニストになる、っていったら、私は全力でとめます」

「あ、やっぱり、とめちゃいます？」

「ええ、とめますね。でもいいじゃないですか。“音楽ファン”なんだから。“音楽ファン”に、年齢って関係ありますか？」

少し沈黙した後、彼は立ち上がりました。

「そうですね！ ボク、今日、帰りに楽器屋さんに寄ってみます！」

照れかくしに笑うかと思いきや、プロデューサーさんの顔は、真剣そのものでした。

まるで少年のように輝く瞳に、私は音楽の魅力を再認識したのです。

彼は今ごろ、立派な“音楽ファン”になっているのでしょうか。

(江口 彩子)



◆「音楽の集い」を開きました

11月3日（祝）に、「音楽の集い」を開きました。「音楽の集い」は、おとなの方の発表会です。

ご参加くださった方は、小さな頃から一音会に通ってくださり、おとなになった今も勉強を続けてくださっている方、あるいは、お子さまを通わせるうちに、ご自身もおはじめになったご家族の方、まったくの飛び込みで、一音会に入ってきてくださった方など、本当に年齢も経歴もさまざまです。下は大学生、最年長は88歳の方です。

しかし、「音楽が好き」という共通点を持つ方々は、一瞬にして会場でひとつになります。

演目の最後に、皆で声をあわせて歌を歌いました。即席でしたが、皆さんの声が1つに溶け合い、あまりの美しさに、圧倒されました。

音楽の集いは、年々、充実度を増しています。

今年も、3時間半をこす長丁場でしたが、夢中になっているうちに、時間が過ぎました。

来年も、素晴らしい会になることでしょう。

来年は、2018年11月4日（日）に開催することを予定しています。



お一人でも多くの方にご参加いただけますことを願っています。

◆シニアの生徒さんを優待します

「音楽の集い」でも実感したことですが、おとなの生徒さんががんばっていらっしゃる姿には、たいへん勇気づけられます。さいわいなことに、年齢の高い方からの問

い合わせも、よくいただくようになりました。

おとなの方の場合、声楽のレッスンのご希望をいただくことが多いと感じます。正しい発声で大きな声を出すと、ストレス発散になるだけでなく、呼吸器がきたえられ、病気予防にもなります。

一音会では、2018年1月より、65歳以上の方がご入会になる場合、入会金を免除といたします。もし、ご家族の中にご興味がおありの方がいらっしゃいましたら、ぜひお問い合わせください。後の項目でも触れますが、1月からいくつかのキャンペーンを予定しています。その制度をご利用いただければ、無料でレッスンを体験していただけます。お待ちしております。

◆「ピアノ・トライ」にご参加ください

2018年1月より、「ピアノ・トライ」をおこないます。1年のはじめであり、年度をしめくくろうという時期でもあります。

この1年の進歩を確認し、これからさらなる成長へとつなげるための、大切な行事です。

ご参加くださる方の多くは、毎年、お申し込みくださっています。練習の指針を立てる一助になっているのであれば、幸いです。今年も、お一人でも多くの生徒さんに、ご参加いただきたいと思っています。

お申し込みいただける日は、12月6日（水）と12月9日（土）の2日です。先着の方を優先に、ご希望の時間帯に入ってください。たいへん勝手ながら、お電話のみで受け付けさせていただいております。一度に6本つながる回線で受けておりますが、時間によってはそれをこえる方がかけてくださることもあり、つながりにくいことがあるかもしれません。その場合は、申し訳ありませんが、おかけなおしてください。

くわしい要綱については、先月号の「とらいあぐる」に載せましたので、ごらんください。

なお、「ル・コンセール」は、2月11日と2月25日の2回、予定しております。「ル・コンセール」とは、「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんに、ご出演をお願いするコンサートです。

一音会は、来年度から新しいスタッフを2人、迎えます。今年度の「ル・コンセー

ル」の講師演奏は、新スタッフのお披露目とさせていただきます。

演奏者と曲目につきましては、追ってお知らせいたします。

◆「フォルテの会」を開きます

2月4日（日）に、「フォルテの会」を開きます。場所は「ひびきホール」、入場は無料です。

「フォルテの会」は、ヴァイオリン、フルート、作曲、声楽などの副科と、「うたくらぶ」（合唱）の生徒さんたちの発表会です。

先生たちの楽しい発表も予定しています。

副科に興味をお持ちの生徒さんやご家族の方には、ぜひ足を運んでいただきたいと思っています。「フォルテの会」についてのくわしいご案内は、追ってプリントをお配りするとともに、ポスターでもお知らせいたします。

次の次の項でもお知らせしていますが、新年に、副科のレッスンを1回かぎり、ワンコイン（500円）で体験できるキャンペーンを予定しています。いきなりはじめるのは敷居が高いけれど興味はあるなあと思っている方はぜひ、レッスンを体験してみてください。

ピアノのレッスンの中で「うたうように」という表現を求められることは多いものです。ですが、ピアノという楽器でそれを追求することは簡単ではありません。実際に「うたう」のが一番です。また、息つぎのいらぬピアノは、フレーズの表現を学ぶことも、あまり適していません。

声楽や単旋律の楽器を学ぶことは、ピアノの欠点を補充し、表現力を磨きます。



◆シュテファン・メラール先生がレッスンをします

先号でもお知らせいたしました、ウィーン国立音楽大学教授である、シュテファン・メラール先生が来日されます。

メラール先生は、先日、「第27回クララ・ハスキル国際ピアノコンクール」で優勝された、一音会卒業生、藤田真央さんを指導する先生のお一人です。そのご縁から、今回特別に、一音会の生徒さんにレッスンをしていただけることになりました。

まだ、日程的にレッスンをお申し込みいただけます。メラール先生は、演奏家として世界的に活躍するとともに、若い音楽家を育成することに尽力されていることでも知られる先生です。この貴重な機会をぜひ生かしてください。

レッスンを希望する方は、ピアノ担当先生もしくは一音会本部まで、ご連絡ください【本部：03-5966-7711（担当：谷口、江口）】。

◆在籍生徒さん向けのキャンペーンを予定しています

くわしくは、プリントを用意し、来年頭にご案内いたしますが、在籍生徒さんが、新年度からのレッスンをお決めになるお手伝いとして、いくつかの体験レッスンをご用意する予定です。「百聞は一見にしかず」というように、経験のないレッスンについて知るには、説明をきくよりも、実際に体験をしてみるのが早道です。

具体的には、4つ、ございます。うち3つは無料です。

体験したら、そのコースをとらなくてはいけない、ということは、一切ありませんので、お気軽におためしてください。

1. アドバンスAのピアノレッスン30分無料体験

お一人、1回のみとさせていただきます。

「〇〇先生のレッスンを」と、指名していただくことができます。

すべての方が対象です。アドバンスAのレッスンをすでに受けていらっしゃる生徒さんも、他の先生のレッスンをおためしいただけます。

「そんなことをしたら失礼では？」というご質問をよく頂戴します。が、すべての先生の了解のもと、期間限定でおこなっていることですので、そのご心配は無用

です。

「どの先生で受けたら良いか分からない」という場合は、本部にご相談ください。

2. リトミックレッスン無料体験

原則として、お一人、1回とさせていただきます。(年齢構成や担当や曜日など、複数回おためしになりたい場合は、ご相談ください。)

すべての方が対象です。

特に、現在、リトミックをお受けになっていらっしゃらない方は、ぜひ体験レッスンをお申し込みください。かつてリトミックをなさっていた方も、今現在の年齢のクラスをおためしになることをおすすめします。

3. レギュラーのピアノレッスン30分無料体験

お一人、1回のみとさせていただきます。

現在、ピアノを受講していない生徒さんにかぎりません。

現在、リトミックを受講していらして、ピアノをおはじめることを検討していらっしゃる生徒さんに、ぜひ活用していただきたいと思います。

ピアノをおはじめる年齢に達していらっしゃらない生徒さんで、まだ絶対音感のレッスンをお受けになっていない生徒さん(ベビーリトミッククラスの生徒さん等)は、絶対音感のレッスン(20分)を無料でご体験いただけます。

4. 副科の個人レッスン30分500円

原則として、1種類のレッスンにつき、1回とさせていただきます。

すべての方が対象です。すでに副科をお受けになっている生徒さんも、他の科目や他の先生のレッスンを体験いただけます。

「うたくらぶ」(合唱)は、無料で体験いただけます。

1と2は、2018年1月中旬～2月18日、3と4は、2018年1月中旬～4月21日を、キャンペーン受付期間とさせていただきます。

上記のキャンペーンについては、よりくわしいご案内を、新年度の資料とともに、配布させていただきます。ですが、ご案内を待たず、ご関心がおありの方は、お気軽に本部までお電話ください。

◆風邪の季節になりました

寒くなり、またインフルエンザのシーズンがやってきました。

今年は、ワクチンが不足しているとの報道もあり、不安をつのらせている方もいらっしゃるでしょう。

スタッフも、普段以上に、体調管理に注意を払うとともに、生徒さんの間で感染がおこらないよう、気を配っています。

生徒さんにも、レッスンの前後に手を洗うなど、予防につとめていただきたいと思っています。咳やくしゃみが出る場合は、マスクをご着用ください。教室でも使い捨てマスクをご用意していますので、受付でおっしゃってください。

皆で元気に冬を乗り切れますよう、ご協力を、よろしくお願いいたします。

◆1年間、ありがとうございました

今年も、生徒さん、ご家族の皆さまの、惜しみないご協力とご理解をいただき、無事、1年を終えることができます。1年間、本当にありがとうございました。

新しい年が、皆さまにとって、素晴らしい年になりますことを、願ってやみません。

冬休み中、一音会本部は12月23日（土）より1月6日（土）まで、お休みをいただきます。勝手ながら、その間は、電話でのご相談もお休みさせていただきますこと、どうかご了承ください。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。（今年度より、月曜日の夜に行なっております。よろしくお願いいたします）

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。

2017年のあゆみ

1月8日	2017年 レッスン開始日	
1月21日・22日・28日・29日・2月5日	全 5日間	
	ピアノ・トライ	於 バッハはうす
1月29日	第18回「フォルテの会」	於 ひびきホール
2月5日	第58回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
2月12日	第59回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
3月17日・18日	アンデルセン先生 レッスン	於 ヘンデルはうす
3月20日	アンデルセン先生 コンサート	於 ひびきホール
4月8日～	2017年度レッスンスタート	
7月15日～27日	リハーサル・トライ	於 ヘンデルはうす
8月4日～7日	2017ピアノ発表会	於 成増アクトホール
11月3日	第18回「音楽の集い」	於 ひびきホール
12月18日～	シュテファン・メラール先生レッスン	於 ひびきホール
12月22日	2017年 レッスン最終日	

